

第一生命グループの 事業領域と主なグループ会社

●国内生命保険事業

グループの中核事業として、さまざまなお客さまニーズに対応できるよう、最適な商品を最適なチャネルでお届けする3生保体制で展開しています。

一生涯のパートナー

第一生命



第一フロンティア生命

ネオファースト生命

●海外生命保険事業

米国、オーストラリア、ベトナム、インドネシア、インド、タイの6カ国にて海外生命保険事業を展開しています。



●アセットマネジメント事業

グループ成長戦略の一翼を担う事業として、生命保険事業との親和性が高く、成長が期待できるアセットマネジメント事業を国内外で展開しています。



●その他事業

システム関連事業や調査・研究事業、総務関連事業など、保険事業や資産運用関連事業に取り組む上で必要な事業を行っています。



株式会社 第一生命経済研究所

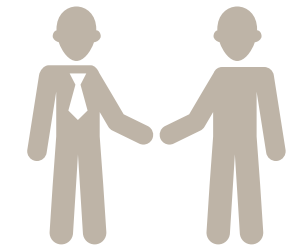
数字で知る第一生命グループ

第一生命の歴史

114年



1902年に、日本で初めての「相互会社」として創業しました。1世紀以上の時が経ち、株式会社になった今も創業時の経営理念「お客さま第一主義」を承継し続けています。



お客さま数

約 **1,100万人**

当社グループは、多くのお客さまに支えられながら、お客さまの「一生涯のパートナー」として、お客さまの立場に立った商品・サービスを提供し続けています。

(注) 第一生命、第一フロンティア生命、ネオファースト生命の合算。

グループ従業員数

世界10カ国で約 **6.7万人**



国内の約6万人に加えて、海外でも約1万人の多様な人財が活躍しています。

個人保険分野新契約件数

1日約 **4,000件**



最適な商品を最適なチャネルでお届けすることで、多様化するお客さまのニーズに合った商品を提供しています。

(注) 第一生命、第一フロンティア生命、ネオファースト生命の合算。

保険金・給付金のお支払額

1日約 **50億円**

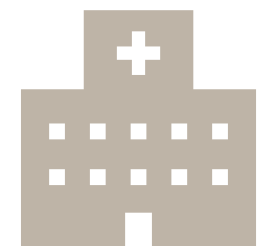
保険金・給付金をお受取りいただくときこそ保険の役割が果たされるべきという認識を共有し、正確・公平なお支払いを行っています。

(注) 第一生命、第一フロンティア生命、ネオファースト生命の合算。

連結純利益

約 **1,700億円**

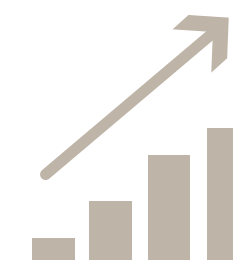
第一フロンティア生命の黒字化や、当期から連結対象となったプロテクトタイプの利益も大きく貢献し、5期連続で上場来最高益を更新しました。



連結総資産

約 **50兆円**

将来の保険金などのお支払いに備えて、お客さまからお預かりする大切な保険料を運用しています。また、日本トップクラスの機関投資家として、安全性・収益性を同時追求し、金融仲介機能を果たしています。



創業から変わらぬ 「お客さま第一主義」の精神

第一生命は110年以上の歴史のなかで、幾多の時代や社会の変化に直面してきました。

そのなかでも、私たちが最も大切に「お客さま第一主義」という経営理念を実践するために、

「受け継いできたものを守る」ことに加え、

変化に対応して「変えるべきものは変える」ことに取り組んできました。

第一生命はこれからも“変革”に挑戦し続け、常に最良であることを目指していきます。

創業

お客さま本位の生命保険会社の実現に情熱を注ぎ続けた創業者「矢野恒太」により、日本で最初の相互会社「第一生命」を設立しました。

保健文化賞の創設

日本の衛生環境が悪化した戦後、当時社長であった矢野一郎はこの状況を憂い、保健衛生の向上に取り組む人々に感謝と敬意を捧げる賞として、保健文化賞を創設しました。現在まで時代の変化に伴い、幅広い課題への取り組みを顕彰し続け、2016年で68回目を迎えます。



「生涯設計」の打出し

創業以来初めて、保有契約高が減少に転じた1997年。お客さまの人生のリスクをライフステージの変化に合わせてトータルにカバーする「生涯設計」のコンセプトを打ち出しました。この取り組みは現在、「一生涯のパートナー With You プロジェクト」へと進化しています。

1997

新創業～

株式会社へ組織形態の変更 東京証券取引所上場

絶えず「お客さま第一主義」を推進し、経営の選択肢を拡げグローバルな成長戦略を実行するため、株式会社に組織形態を変更しました。また2010年4月に東京証券取引所に上場した当社は、この日を「新創業」と位置づけ、新たな変革のステージに入りました。



新創業・第2ステージ～

持株会社体制への移行

柔軟な経営資源配分や迅速な意思決定を可能とし、一層のグループシナジーを発揮することで持続的な成長を続けるために、当社グループは2016年10月に持株会社体制へ移行します*。2010年の「新創業・株式会社化」に続く変革の挑戦とし、今年度持株会社体制への移行を機に新創業第2ステージに取り組んでいきます。
*持株会社体制への移行については、当局による許認可などを条件に実施します。

第一生命グループ

2016

2014

2010

2007

2001

1998

金融業界との 業務提携開始

金融業界の自由化が進むなか、当社は1998年に日本興業銀行（現みずほフィナンシャルグループ）との業務提携を行いました。その後も幅広い商品の提供や事業競争力の強化を目的に多様な企業との提携を進めており、2016年には新たなパートナーとしてかんぽ生命との包括的業務提携を締結しました。（当社の提携先の詳細はP42をご覧ください）



海外生命保険事業への 事業展開開始

当社は2007年のベトナム進出を皮切りに、タイ・オーストラリア・インド・インドネシアといった「アジア・パシフィック地域」での事業展開を開始し、2015年には米国・プロテクティブの買収により世界最大の保険市場である「北米地域」へ参入しました。この2地域と日本を結んだ「グローバル3極体制」により海外生命保険市場の高い成長性を取り込み、グループの成長を牽引していきます。



「日本経営品質賞」の受賞

1997年に「生涯設計」のコンセプトを打ち出し、高度なコンサルティング能力を備えた人財の育成や新商品の販売、既契約者のフォローなど「お客さま第一主義」に基づいた活動が評価され、金融・保険業界初となる「日本経営品質賞」を受賞しました。



国内3生保体制の確立

2006年第一フロンティア生命設立、2014年ネオファースト生命子会社化により、国内生保事業における3生保体制を築きました。最適な商品を最適なチャネルでお届けすることで、多様化するお客さまニーズに的確に対応する体制を強化しました。

一生涯のパートナー

第一生命

第一フロンティア生命

ネオファースト生命

1950

創業者 矢野恒太の思い

最大たるより
最良たれ



創業者 矢野恒太

第一生命グループの理念体系

グループ理念体系(Mission・Vision・Values)の共有により、
グループ各社が、それぞれの地域や国で、
生命保険の提供を中心に人々の安心で豊かな暮らしと地域社会の発展に貢献します。
また、グループ戦略の共有により、各社がベクトルを合わせて
グループ価値の最大化と持続的な成長を目指します。



企業の存在意義

Mission

第一生命グループは、1902年、日本での創業以来、お客さま本位(お客さま第一)を経営の基本理念に据え、生命保険の提供を中心に、地域社会への貢献に努めてきました。これからも、お客さまとお客さまの大切な人々の“一生のパートナー”として、グループ各社が、それぞれの地域で、人々の安心で豊かな暮らしと地域社会の発展に貢献していきます。

中期的に目指す姿

Vision

いちばん、お客さまから支持される保険グループになるために、以下の4つの視点から誰よりも「人」を考える会社を目指していきます。

いちばん、 品質の高い会社	いちばん、 生産性の高い会社	いちばん、 従業員の活気あふれる会社	いちばん、 成長する期待の高い会社
------------------	-------------------	-----------------------	----------------------

私たちが大切にする価値観

Values

第一生命グループは、お客さま、社会、株主・投資家の皆さま、従業員からの期待に応え続けるための企業行動原則として「DSR憲章」を定め、持続可能な社会づくりに貢献します。
「DSR」とは、「第一生命グループの社会的責任(Dai-ichi's Social Responsibility=DSR)」を表し、PDCAサイクルを全社で回すことを通じた経営品質の絶えざる向上によって、各ステークホルダーに向けた社会的責任を果たすと同時に、第一生命グループの企業価値を高めていく独自の枠組みです。

お客さま満足	お客さまの「一生のパートナー」を目指し、お客さま満足を目指した高い品質の商品・サービスを提供します。
コミュニケーション	すべてのステークホルダーに対して説明責任を果たすとともに、いただいたご意見を真摯に受け止め、積極的に企業経営に反映します。
コンプライアンス	高い倫理観を持ち、あらゆる事業活動においてコンプライアンスを徹底します。また、プライバシーを尊重し、個人情報をはじめとする各種情報の保護・管理を徹底します。
人権尊重	各国、各地域において、文化および慣習を尊重し、その発展に貢献する経営を行います。また、人権を尊重し、人権啓発に積極的に取り組みます。
ダイバーシティ	多様な人材が活躍できる働きがいのある職場環境を確保し、積極的な人財育成を行います。
環境保護	地球環境保護を社会的責任と捉え、日常的かつ継続的に環境保護活動に取り組みます。
社会貢献	「良き企業市民」として地域社会とともに発展することを目指し、社会貢献活動を行います。
健康増進	地域の皆さまの健康増進に寄与する経営を行います。また、従業員の心と身体の健康増進を図ります。
持続的な企業価値の創造	以上の8つの原則、経営資源の有効活用・業務の生産性向上、財務基盤の維持・強化によって、持続的な企業価値の創造に取り組みます。

第一生命グループならではの 価値創造経営の枠組み ～DSR経営～

私たちは、お客さまの視点から
あらゆる業務の品質を高める「経営品質向上活動」を
1998年から始め、2001年には金融機関初の
日本経営品質賞を受賞しました。

受賞後も、取組みの進化に合わせて「CSR経営」、
そして、株式上場を機に、
当社らしさを更に発揮していくために「DSR経営」へと、
経営トップが替わっても一貫して
経営品質の向上に取り組んできました。

こうした活動を続けてきたことで、
今では、社員一人ひとりが、
お客さまにとっての最良を目指して、
日々の創意工夫と弛まぬ改善努力を行える
組織になっています。

また、「DSR経営」の好事例を共有し、活用することで、
効率的に課題解決が進み、
近年の当社グループの成長加速につながっています。

私たちは、
これからも「DSR経営」を絶え間なく
進化させながら、
持続的な価値創造を実現していきます。

「経営品質向上活動」の変遷



社員一人ひとりが「DSR経営」を支える

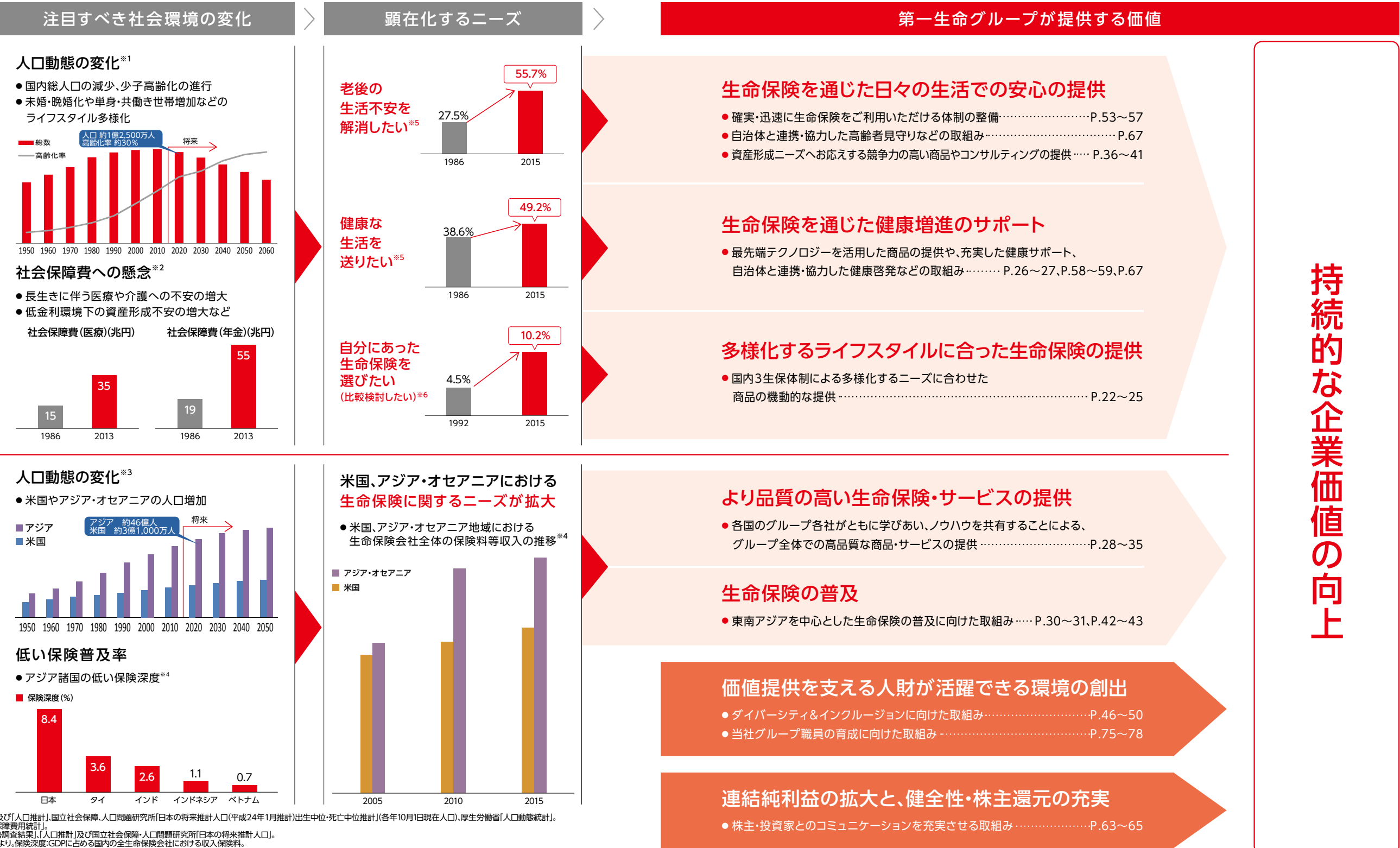


「DSR経営」好事例の共有・顕彰(DSR推進大会)



～DSR経営～ 第一生命グループが ステークホルダーに提供する価値

国内における人口動態の変化に伴う社会保障制度の持続可能性への懸念や、
米国やアジア・オセアニアを中心とした人口増加など、国内外の社会環境は大きく変化しています。
こうした社会環境の変化に対して正面から向き合い、本業を通じて日常生活に安心と
豊かさをお届けする取組みを行っています。
第一生命グループは、一生涯のパートナーであり続けるために、
DSR経営を推進し、あらゆるステークホルダーに対して価値を提供していきます。



創業の精神を守りながら、 さらなる「変革」に挑戦し、 持続的成長を実現していきます。

2016年7月
代表取締役社長

渡邊 光一郎

「一生涯のパートナー」で あり続けるということ

「一生涯のパートナー」であり続けること。それは、私たちがお客さまや社会にとっての「最良」を目指し、絶えず変わり続けていくことに他なりません。一世紀を超える歩みを振り返っても、私たちは、いつもお客さまを第一に考え、最良の道を進むことで、価値を創造しながら、成長を続けてきました。

こうした「最良」を目指す経営理念は、今も社員一人ひとりに刻まれ、ビジネスの隅々にまで行き渡っています。第一生命グループが全国各地で行っている「自治体との連携・協力」(=P.67)もその一例といえます。これは、当社グループと自治体が、各地が抱える課題の解決に協働して取り組むもので、ある一人の現場社員が、特定のがんの死亡率が全国ワースト県であることを憂慮し、「地域とのつながりを持つ自分たちの力で何とかできないだろうか」と仲間働きかけたことがきっかけで始まりました。やがて、自治体と協定を結び、がん早期発見のための検診啓発活動として展開され、それが現場社員たちの使命感の醸成にもつながり、日々の営業活動にも好循環をもたらしました。これがビジネスの好事例として各地の課題に合わせた形で進化しながら、全国に広がっていきました。

この例のように、社員一人ひとりが、本業を通じて、お客さまや社会に価値を創造していくという企業の在り様は、一般的な「CSR」の枠を超えた当社グループ独自のものであることから、グループ名の頭文字「D」を冠して「DSR=Dai-ichi's Social Responsibility」と表現しています。

環境変化が激しい現代であるからこそ、その変化に従来以上に俊敏に対応していくことが求められています。私たちは、DSR経営の実践を通じて独自の強みを磨きながら、あくなき変革への挑戦を続けていきます。

当社グループが進める 中期経営計画「D-Ambitious」

こうしたDSR経営を一層進化させ、大胆かつスピード感を持った事業展開を通じ、ステークホルダーの期待に応える成長を成し遂げるために、当社グループは2015-17年度中期経営計画「D-Ambitious グループを挙げた持続的価値創造の実現」に取り組んでいます。本中期経営計画では、成長戦略として、国内生命保険事業、海外生命保険事業、資産運用・アセットマネジメント事業を「3つの成長エンジン」と位置づけて、各事業領域の強みを伸ばし、更なる成長と飛躍に向けて取り組んでいます。

国内生命保険事業では、さまざまなお客さまニーズに最適な商品・サービスを最適なチャネルでお応えするために、第一生命、第一フロンティア生命、ネオファースト生命の「国内3生保体制」をスタートさせており、海外生命保険事業では、グループ全体利益への貢献度を着実に拡大させるべく、高い成長を見込む新興国市場と、安定的な利益貢献を見込む先進国市場でのバランスのとれた事業展開を推進しています。

更に、資産運用・アセットマネジメント事業では、資産運用の高度化と、生命保険事業と親和性の高いアセットマネジメント事業の収益力強化を通じて、持続的な連結利益の拡大に貢献していきます。

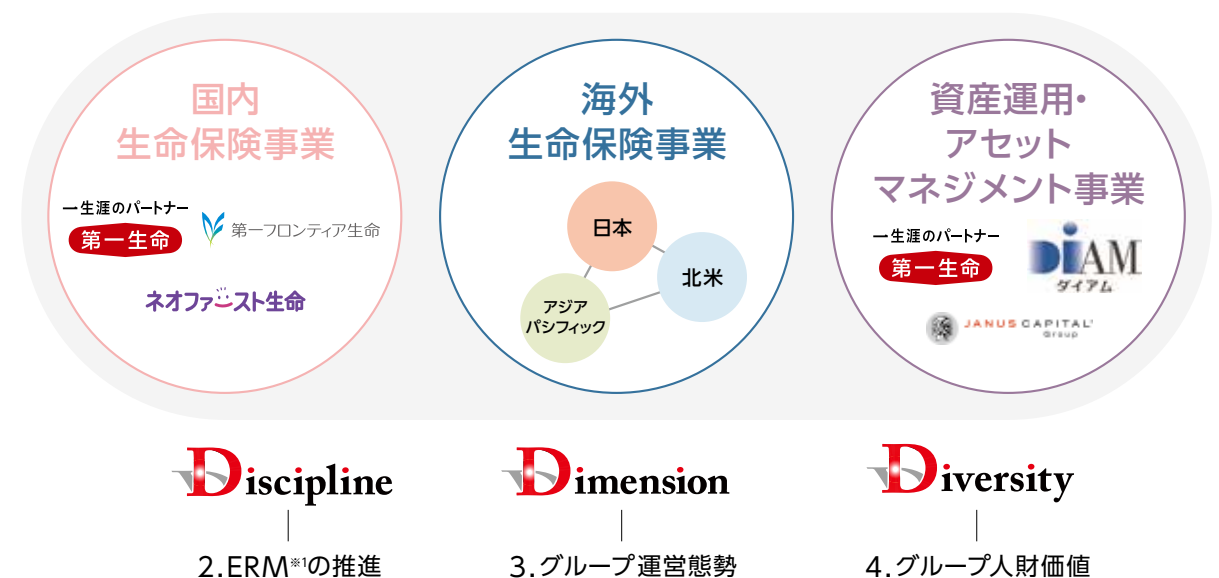
そして事業のグローバルレベルでの拡大や多様化に対応し、成長を着実に加速させていくために、2016年10月より「持株会社体制」へ移行します。これによりグループの成長戦略の最適化を行いつつ、ガバナンス態勢の強化を図ります。

また、企業の成長とステークホルダーへの価値を生み出す主体は「人財」とであるという考えに基づき、多様な人財が活躍する環境の整備を更に進めるとともに、グローバルな事業展開を支える人財の育成を積極的に進めます。

基本戦略4つの「D」

Dynamism 1.成長戦略

「3つの成長エンジン(国内生命保険事業、海外生命保険事業、資産運用・アセットマネジメント事業)」で持続的かつ確かな成長を実現します。



※1 ERM(Enterprise Risk Management)とは、リスクの種類・特性を踏まえ、「利益・資本・リスク」の状況に応じた戦略を策定し、資本効率・企業価値の向上を目指す取り組みです。



2015年度の振り返り ～逆風を乗り越え5期連続の増益を達成～

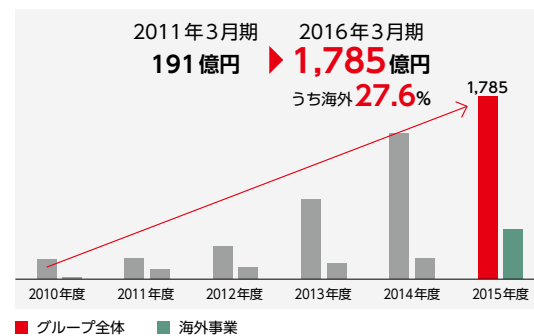
2015年度、本中期経営計画で推進する「3つの成長エンジン」が真価を発揮し、国内外の各事業がいずれも堅調に推移した結果、2016年3月期の親会社株主に帰属する当期純利益は5期連続で上場来最高を更新しました。当期から連結対象となった米国プロテクティブの利益も大きく貢献しました。また、株主への還元についても強化することができました。

株式会社化・上場を果たした2010年からの6年間で振り返ると、好調な経済環境の時期もあったものの、私たちの歩みは決して平坦な道のりではなく、欧州債務危機や東日本大震災など、まさに逆風というべき多くの試練を経験しました。

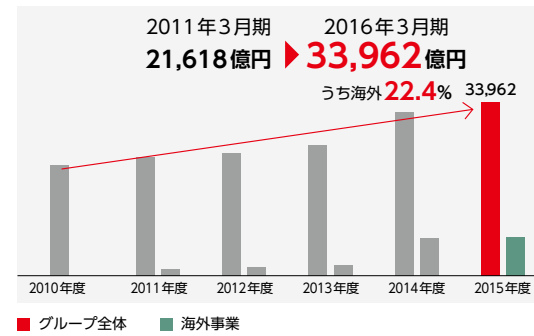
このような環境のなか、私たちは他社に先駆け、国内外の成長に向けた投資にいち早く着手するなど、企業価値を高めるための変革に取り組んできました。その結果、現時点で当社グループは事業分散、地域分散、更には資産運用の高度化が図られており、国内の経済環境などに左右されにくいアドバンテージを獲得しつつあります。これはまさに、国内外のグループ会社で、変革に挑戦するDSR経営をそれぞれの持ち場で実践し、一丸となって価値創造に向けた取り組みを進めた成果といえます。

これらの結果、私たちは、株式会社化・上場直後の逆風を乗り越え、成長軌道を着実に歩み続けています。

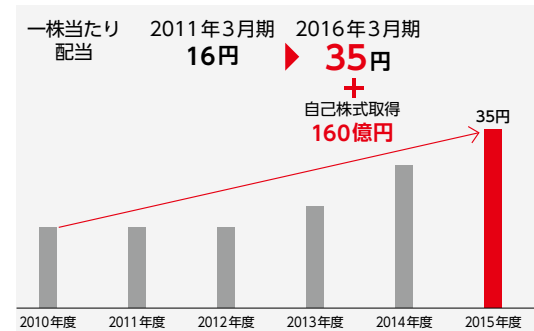
■ 連結当期純利益



■ グループ保有契約年換算保険料



■ 株主還元



「新創業第2ステージ」 ～アライアンスやイノベーションの推進～

足元では、新興国の景気減速、国内でもマイナス金利政策の導入など、内外の金融・経済環境が大きく変動していますが、当社グループの成長戦略は、揺らぐことなく進化していきます。

私たちは、これからの成長戦略の一層の進化と、持株会社体制への移行を契機として、今年度を「新創業第2ステージ」のスタートと位置づけました。

持株会社体制により、グループベースでの柔軟な経営資源の配分や各社の意思決定の迅速化、グループ各社間での効率性の向上や更なるシナジーの発揮が期待できます。これは私たちにとっての新たな変革への挑戦のスタートです。2010年の株式会社化・上場を「新創業」と位置づけたように、今また、この機を捉え「新創業第2ステージ」と謳うことで、私たちの志を1902年当時の創業の精神にリセットし、一人ひとりが起業家のスピリットで更なる成長に挑んでいきたいと考えています。

「新創業第2ステージ」では、「3つの成長エンジン」である各事業の成長戦略のこれまでの成果を土台として、更なる高みを目指すとともに、各社の価値創造と成長の加速をもたらすシナジーの創出にも取り組んでいきます。

まず、国内生命保険事業においては、第一生命の生涯設計デザイナーのコンサルティング力や、生産性の向上に資する育成体制の強化、チャネルの複線化・多様化を更に進め、お客さまへのきめ細やかなコンサルティングを充実させていきます。また、グループシナジーを活かし、生涯設計デザイナーによる第一フロンティア生命商品の販売を日本全国に拡大し、お客さまの貯蓄ニーズにお応えする体制を整えます。

また、海外生命保険事業では、プロテクティブが昨年度実施した買収案件の利益貢献が今期から始まる予定です。今後も同社の買収事業戦略の推進を通じて更なる利益貢献の拡大を目指します。加えて、豪TALをはじめアジアパシフィック各国のグループ会社も、各社の強みを発揮しつつ、持続的な成長を目指していきます。

これらに加え、「3つの成長エンジン」をより強靱かつ柔軟なものとするべく、「株式会社かんぽ生命保険(以下、かんぽ生命)との業務提携」、「アセットマネジメントOneの設立」、「InsTech(インステック)の推進」を新たに戦略として組み込み、成長機会の創出に取り組めます。

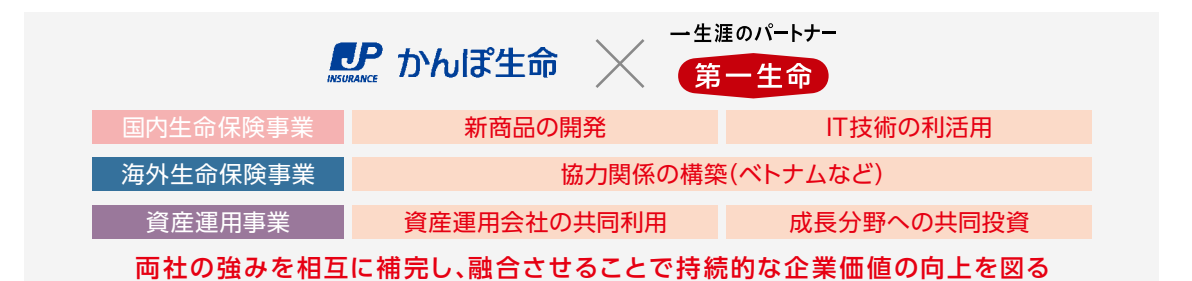
「3つの成長エンジン」を更に強靱かつ柔軟にする取組み

かんぽ生命との業務提携

アセットマネジメントOneの設立

InsTechの推進

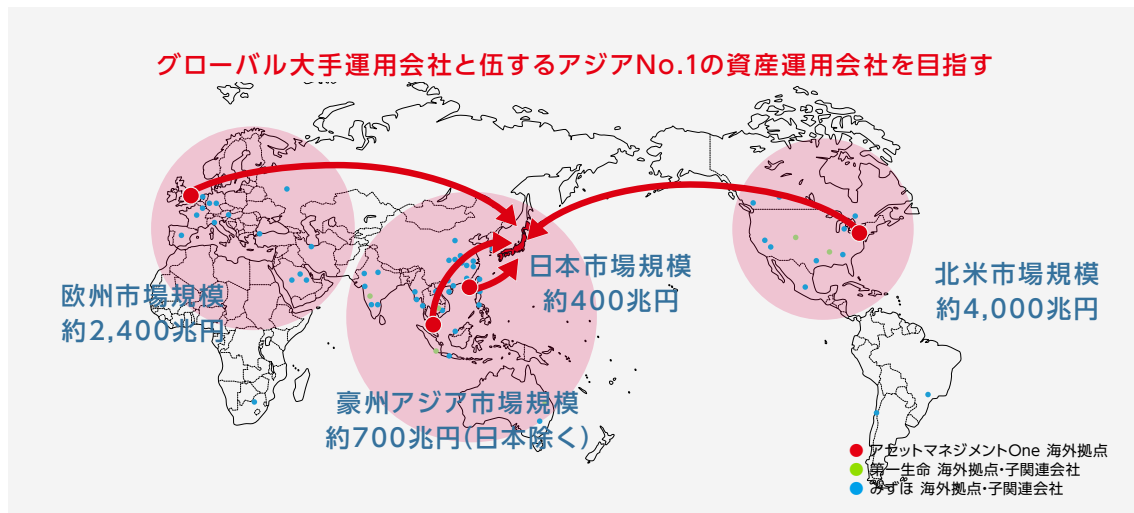
かんぽ生命との包括的な業務提携は、「3つの成長エンジンにおける協業」と「地域社会の発展」を共通ビジョンとして締結したものです。この提携により、両社は国内生命保険事業に加え、海外生命保険事業・資産運用事業でもそれぞれの強みを相互補完・融合することが可能となります。まずは、第一生命ベトナムの販売強化に向けた各種支援や、資産運用におけるプロジェクトファイナンスといった成長分野への共同投資などを検討・実施するほか、国内生命保険事業に関する共同研究なども検討します。これらの取組みを通じ、私たちは、商品・サービスの品質向上によるわが国の地域社会の発展や、生命保険の浸透・普及を通じた諸外国の社会・経済の発展に貢献していきます。



2016年10月より、グループ会社のDIAMアセットマネジメントはみずほフィナンシャルグループの3社と統合して設立する「アセットマネジメントOne」として、新たなスタートを切ります。

世界の資産運用市場を見ると、北米や欧州、豪州アジアなどの市場規模は巨大であり、今後更なる成長が見込めます。

日本トップレベルの資産運用会社となる「アセットマネジメントOne」は、そのネットワークを総動員して世界の資金を取り込み、各運用会社の強み・リソースを結集することで、運用力、商品競争力、販売力を強化し、グローバル大手運用会社と伍するアジアNo.1の資産運用会社となることを目指します。



保険ビジネスとテクノロジーの両面から生命保険事業独自のイノベーション創出を目指す「InsTechの推進」は、未来の保険ビジネスを見据えた取組みとして、ヘルスケア・アンダーライティング・マーケティングの各領域において最優先の戦略課題と位置づけグループを挙げて取り組んでいます。2015年8月には、成果の第一弾として医療ビッグデータ解析により、ネオファースト生命で“非喫煙者割引を適用した業界初”の終身医療保険”を発売し、「健康増進」の視点で新たな価値を世の中に提供することができました。今後は他業態との連携や、外部の開発力・アイデアの積極活用なども視野に入れながら、InsTechを更に推し進めることにより、最新のテクノロジーを活用した、これまでにない新たな付加価値の創出に向けて取り組んでいきます。

※生命保険協会加盟の生命保険会社が取扱う保険の中でネオファースト生命調べによる（2015年6月29日時点）。医療関係特約などを除く。



終わりに

当社グループは、2020年に目指す姿として中長期ビジョン「安心の最高峰を、地域へ、世界へ」を掲げ、世界中の皆さまから選ばれ続ける保険グループを目指しています。この中長期ビジョンを実現していくため、今後も「創業より受け継いだ大切なもの」を守りつつ、DSR経営の実践を通じて独自の強みを磨きながら、グループ一丸となって変革への挑戦を続けていきます。